

## 住宅供給側の考える安全意識と要求性能 — 住宅の構造安全に関する研究 (その2) —

○久木章江\*\* 石川孝重\* (\*日本女大, \*\*活水女子短大)

**目的** 1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震を期に、一般居住者の住宅の安全性に関する意識は高まったと考えられる。前報では経済性を考慮した一般居住者の要求構造安全水準について報告した。本報では、住宅を供給する側が、一般居住者の安全性に対する意識をどのように認識しているのかを調査した。これまでに明らかにした一般居住者の要求水準との相違を把握し、住宅供給側と購入側の要求水準を整合させたい。これが、居住者の考えや要求を反映した住宅を実現するための一資料になることを目的としている。

**方法** 住宅情報誌に広告を掲載している全国の住宅企業50社を対象に、郵送によるアンケート調査を行った。アンケートは、安全性に関する説明事項および購入者に質問される事項、阪神・淡路大震災による影響、居住者の安全性および性能の要求水準に関する質問等で構成し、要求水準については「居住者がどう考えていると思うか」という視点で回答してもらった。

**結果** 結果の一部を纏めたものを以下に示す。供給側は直接購入側とかわるため正確に把握している部分もあるが、結果が二分するものも多く、傾向を把握するのは難しい。

- ①購入側の安全性に対する意識は地震以降高まったが、知識はあまり高まっていない。
- ②安全性および使用性に対する購入側と供給側の重視する度合は、異なる部分が多い。
- ③供給側が望ましいと考える住宅の要求安全水準は、居住者の期待する安全水準より高い。
- ④購入側は安全性より経済性を優先する傾向にあるが、これを認識している供給側は半数以下である。その他、購入側の意識に関する回答は結果が分散した。購入側の意識に対する企業の認識は、結果が集約せず、企業によってまったく傾向が異なることがわかった。